

# 高校生が社会問題に挑戦！ ここまでやるか、



世界で活躍する基盤を形成する

# 協働ゼミ

都文館グローバル高校では、「新しい価値の創造」を掲げ、幅広い教養を習得するとともに、それらを使いこなす思考力、問題発見、問題解決力を養うための生徒主体の「協働ゼミ」を行っています。

高校1年生と高校3年生が合同で行う協働ゼミは13のゼミからなり、各ゼミのテーマは国際系・社会系・地域創生・ビジネス・アートなど多岐に渡ります。生徒自らが主体的に行動し、各自の問題意識に基づいて協働先の方と連携することで、実践的な学びを深める活動です。また、学年を縦断したグループワークや、学外の方たちとともに活動するフィールドワークから、協働する力や社会で活躍するために必要となる実践力を身に付けていきます。



新しい価値を創造する13のゼミ (年度により探究テーマの変更・見直しあり)

<b>比較文化</b>	様々な文化との異文化理解と連携、歴史・社会・人を理解した上で交流で異文化理解と多文化の理解を構築する。	<b>口永良部島</b>	離島から始まる「地域活活」の再定義。各個人が研究を通して、自分の地域活性の再定義をする。
<b>ビジネス</b>	社会に遊ぶ生命の質を高めるビジネスに必要な知識を実社会から偏狭的に学び、価値を創造する。	<b>教育</b>	幸福の共創—そして発見— 幸福な教育の再定義をし、学校という存在のあり方を考える。 また、これから求められる教育について考え、実行する。
<b>地域創生</b>	地域の歴史、宗教、信仰を知ることで失われた日本の姿をあらわにする。また、それを世界に発信していく。	<b>STEM</b>	ITの可能性の追求、IT人材を育成しつつ、新たなITの活用方法を探る。
<b>社会福祉</b>	若々の学生を尊重する社会の実現に向けて社会の現状を理解し、社会へ向けて発信活動し、または企業の調査を行う。	<b>メディアデザイン</b>	新たなメディアリテラシーの構築。 メディアの役割の定着について学ぶ中で、情報化社会における量産量ともいふべきデジタルリテラシーを創造化する。また、メディアリテラシーを市民がどのように獲得してゆくべきか、仮説検証を行う。
<b>アフリカ</b>	Infinit the sunflower—永遠に繋ぐ希望の手— 日本とアフリカを繋ぐきっかけをつくる。	<b>エコロジー</b>	共生—動物・植物・人間のあふべき姿の追求。 共生というテーマに基づき人間のあるべき生活について考える。
<b>アート</b>	Musical Art—アートを通じて人と物の距離の「管絃」を探る。音程と多様な物語を組み合わせ、個性や経験から社会でのアートの重要性、身近さを人々に知ってもらおう。	<b>人間科学</b>	人間の素質を知り、人々の暮らしを豊かにする。 自己、集団、社会におけるの幸福、豊かさとは何かを定義する。
<b>アジア</b>	「多面的に見たアジアの真の姿と持続可能な発展の道」 アジアの持続可能な社会形成に向けて若々人が貢献できることを模索する。		

## コロナ禍でも前進する ゼミ活動

### STEMゼミ

#### 「ロボットプログラミング」

Makeblock社mBotを活用し、プログラミングを学びました。ゼミメンバー全員で最終的な一つの目標を掲げ、レースの攻略を全員で目指しました。ゼミメンバーを6つのグループに分け、最終的な目標としてmBotを使ってのレース攻略を全員で目指す活動です。ゴール達成までの時間を計測することによって生徒間での競争心を掻き立てました。



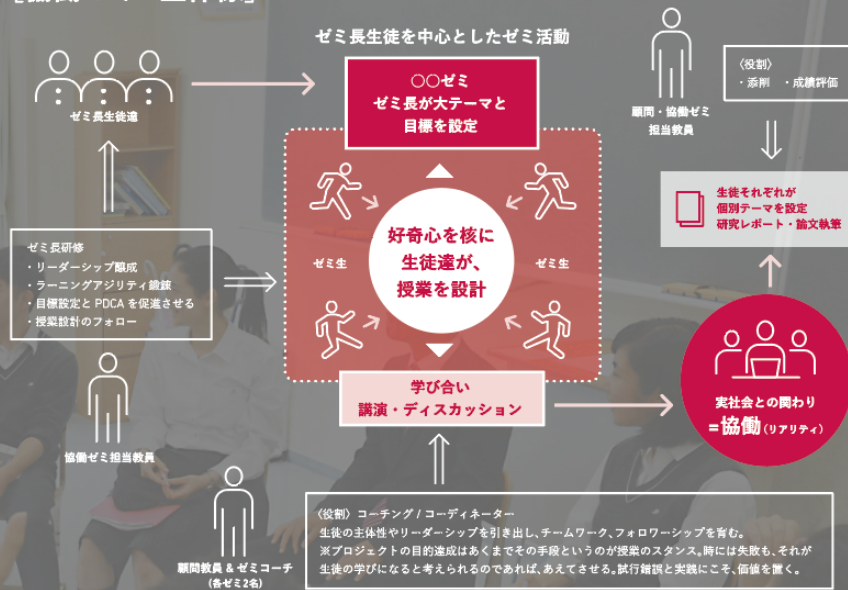
### 口永良部島ゼミ

#### 「SDGs ダイアリー オンラインイベント」

一人でも多くの人がSDGsを身近に感じ、当り前にSDGsが取り組まれている2030年の世界を目指したいと思う大学生たちとともに、口永良部島でオンラインイベントを開催。



## 【協働ゼミの全体像】



## 協働ゼミ紹介



### アフリカゼミ

#### 「ルワンダ渡航」

アフリカ大陸に強い関心を持つ生徒で構成されたアフリカゼミでは、夏休みにルワンダ共和国に2週間程渡航。現地ではGahima agape secondary schoolでのワークショップを行っています。「ラストフロンティア」と呼ばれるアフリカ大陸で沿岸国が経済発展を続ける中、IT技術を中心に内陸国でありながら発展する現場を体感することで生徒のキャリア形成を大きく促進させます。

## 圧倒的成長の理由②

### 世界を舞台にする次代のリーダーとなるための「自立する仕組み」

グローバル高校では、次代のリーダーとなる力を磨く機会を数多く設定しています。体育祭、文化祭、夢お宿などの学校行事のみならず、小テストなどの日々の学校生活に至るまで、多くの場面でハウス(6つの団)単位での活動を取り入れ、ハウスリーダーたちのリーダーシップ育成を図るとともに、リーダーに積極的に協力することでハウスに貢献できるフォロワーシップを学びます。また、週3回実施するアッセンブリ(朝礼)では、整列から出席管理、号令などを全てハウスリーダーが統括し、自主的な運営を行っています。